

# 第 9 回

函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会

## 会 議 録

(平成16年11月4日)

函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会

第9回 函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会会議録

1. と き 平成16年11月4日(木曜日) 13:30～14:35

2. ところ ホテル函館ロイヤル

3. 出席者

(1) 会 長 函 館 市 長 井 上 博 司

(2) 副会長 戸 井 町 長 吉 澤 慶 昭 恵 山 町 長 工 藤 篤  
椴 法 華 村 長 船 木 英 秀 南 茅 部 町 長 細 井 徹

(3) 出席委員 (34名)

(函館市)

西 尾 正 範  
福 島 恭 二  
岩 谷 正 信  
小野沢 猛 史  
佐 藤 幸 太 郎  
山 鼻 節 郎

(戸井町)

伊 藤 修  
吉 田 崇 仁  
吉 田 悦 也  
砂 子 賢 己  
館 山 澄 子

(恵山町)

石 田 徹 也  
斉 藤 明 男  
二 木 進  
藤 原 靖 孝  
斉 藤 賢 三

(椴法華村)

大 津 廣  
田 中 孝 司  
中 市 敏 樹  
佐々木 範 子

(南茅部町)

小 中 捷 弘  
杉 林 幸 弘  
樋 口 廣 文  
関 根 弘  
熊 谷 儀 一

(共通委員)

星 井 英 人  
渡 部 正 一 郎

河 合 裕 秋

金 山 正 智

4. 説明員

函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会事務局  
事 務 局 長 近 江 茂 樹

---

会議に付した事件

(協議事項)

議案第 1号 平成16年度函館市・戸井町・恵山町・楳法華村・  
南茅部町合併協議会補正予算について

---

午後1時30分 開会

川越課長 本日はご多用のところご出席をいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、早速始めさせていただきたいと存じます。

まず、開会に当たりまして、本協議会の会長よりご挨拶をいただきたいと存じます。  
井上会長、よろしく願いいたします。

井上会長 皆さん、本当にお久しぶりでございます。大変ご苦労さまでございます。  
開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、心から厚く御礼を申し上げます。

12月1日の5市町村の合併を目前に控え、本日が最後の合併協議会ということになります。委員の皆様におかれましては、昨年9月に合併協議会を設置をして以来、本日までの長きにわたり、熱心なご協議をいただき、副会長共々心から感謝を申し上げる次第でございます。

さて、5市町村の合併につきましては、本年4月に執り行いました合併協定調印式後、7月7日に北海道知事に対しまして合併の申請を行い、その後10月には北海道議会の議決をいただき、当地域の合併につきましては、北海道知事の決定処分がなされ、11月10日に総務大臣の官報告示がなされる予定でございます。

したがって、現段階におきまして、5市町村の合併は確定をしておりまして、あとは合併期日でございます12月1日を迎えると、そういった状況になっております。

本日はそういった意味で締めくくりの協議会になりますが、これまでの委員の皆様のご支援、ご協力、そしてご努力に感謝を申し上げまして、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いを申し上げます。

川越課長 会長、どうもありがとうございました。

開会に先立ちまして、委員の交代がございましたので、お知らせいたします。

まず、副会長でございますが、細井南茅部町長が就任してございます。

次に、委員でございますが、小中南茅部町助役が就任してございます。

それでは、これからの進行につきましては、協議会規約第9条第2項の規定により、井上会長にお願いしたいと存じます。

井上会長、よろしく願いいたします。

井上会長 それでは、ただいまから、第9回函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会を開催いたします。

最初に、会議録署名委員の選任についてでございます。本日の署名委員は、椴法華村議会議員の中市委員をお願いをしたいと思います。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

それでは、議案の第1号 平成16年度函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会補正予算についてお諮りをいたします。

事務局から説明をお願いいたします。

はい、事務局、どうぞ。

近江事務局長 それでは、議案第1号 平成16年度函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会補正予算につきましてご説明を申し上げます。

今回ご提案する補正予算につきましては、本協議会の11月30日解散までの管理運営に要する経費等の決算見込みに基づきまして、減額補正するものでありまして、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2,159万1,000円減額し、1,817万8,000円と定めております。

なお、本協議会につきましては、11月30日をもって打ち切り決算となりますので、収入・支出について、一部解散後となるものがありますが、それらにつきましては、協議会から函館市に引き継ぐこととなるため、市で補正予算計上をし、執行する予定となっております。

補正の内訳につきましては、明細でご説明をいたしますので、次のページ、2ページをお開き願いたいと思います。

まず、歳入についてでございます。

1款分担金及び負担金、1項1目とも負担金につきましては、本協議会の管理運営に要する5市町村の負担金ですが、前年度繰り越しが生じたこと、また歳出で不用額が生じたことなどによりまして1,559万1,000円減額し、790万9,000円とするものでございます。

次に、2款道支出金、1項1目とも道補助金につきましては、本協議会の管理運営に要する経費のうち、広報広聴等に要する経費に対する北海道からの補助金ですが、収入の時期につきましては、協議会解散後となることから600万円全額を減額するものでございます。

なお、この部分につきましては、新市になる函館市に改めて補助金として交付をされるということでございます。

続きまして、歳出についてご説明いたします。3ページをお開き願いたいと思います。

1 款 1 項とも運営費、1 目会議費でございますが、委員報酬、それから会議資料等の作成、会議の開催等に係る経費でございますが、会議開催回数の減少によりまして179万2,000円を減額し、97万2,000円とするものでございます。

次に、2 目事務局費でございますが、協議会事務局の維持運営費ですが、会議開催回数の減少に伴うコピー使用料等の減によるもので77万3,000円を減額し、347万9,000円とするものでございます。

2 款事業費、1 項 1 目とも事業推進費でございますが、協議会だよりの発行等、住民広報に要する経費、それから例規整備ならびに建設計画の作成等に要する経費でございますが、こちらにつきましては入札の差金が生じたということ等、それから一部事務処理マニュアルを印刷する予定でございましたが、これを自前で作成するということで、これらを合わせた執行差金が生じたことによりまして866万5,000円を減額し、1,372万7,000円とするものでございます。

3 款 1 項 1 目とも予備費につきましては1,036万1,000円を全額減額するものでございます。

以上のとおりご提案を申し上げましたので、ご審議のほど、よろしく願い申し上げたいと思います。事務局からは以上でございます。

井上会長 はい、ありがとうございます。

ただいま、補正予算についてご説明をいたしました。何かご質問、ご意見がございましたら、どうぞ忌憚なくご発言いただきたいと思っております。よろしゅうございますか。

〔「なし」の声あり〕

井上会長 ありがとうございます。

特にご意見、ご異議がないようでございますので、議案第1号 平成16年度函館市・戸井町・恵山町・楡法華村・南茅部町合併協議会補正予算については、原案のとおり決定させていただきたいと思っておりますが、よろしゅうございますか。

〔「異議なし」の声あり〕

井上会長 ありがとうございます。

それでは、原案のとおり決定したいと思います。ありがとうございます。

それでは、次に報告事項に入りたいと思っております。事務局から説明をいたさせます。

はい、事務局、どうぞ。

近江事務局長 それでは、報告事項につきまして、ご説明をいたします。

お手元に配付してございます「合併協定調印式後の経過と今後の取り組み」というタイトルの資料をごらんいただきたいと思っております。

本年4月23日の調印式後からの経過につきまして、順次ご報告をさせていただきます。

まず、5月6日でございますが、北海道から合併重点支援地域の指定を受けてございます。こちらにつきましては、合併関係市町村に対しまして、国ならびに道が合併推進の各種の支援策を重点的に実施する地域指定を受けたものでございます。

次に、5月13日に、5市町村の首長協議を行い、4町村の特別職および教育長の身分の取扱いについて協議を行いました。協議の結果について申し上げます。

まず、戸井町におきましては町長、収入役、教育長、恵山町におきましては町長、助役、楸法華村におきましては村長、助役、南茅部町につきましては町長、助役、教育長、以上の方につきましては、合併後の参与といたし、それぞれの地域の振興や意見反映が適切に行われるための役割を担っていただき、あわせて支所長等の事務を取り扱うこととなっております。

次に、戸井町助役および楸法華村教育長につきましては、一般職として任用することとしてございます。

なお、その後、南茅部町長および助役の交代がございましたので、改めて10月15日に協議を行い、新しい町長、助役が合併後の参与として就任していただき、支所長等の事務の取扱いを行っていただくこととなっております。

次に、6月10日から6月25日の間で、5市町村の定例会におきまして、合併関連の議案でございます「廃置分合の議案」、「財産処分の議案」、「議会の議員の特例に関する議案」、それと「地域審議会の設置に関する議案」の4件につきまして、それぞれ議決をいただいております。

次に、7月7日に5市町村長より北海道知事に対しまして、廃置分合の申請書を提出いたしました。

次に、8月18日から8月30日までの間で、第8回合併協議会として、平成15年度決算および平成16年度補正予算につきまして、こちらの方は書面会議という形で協議を行っていただきました。

次に、10月8日でございますが、北海道議会におきまして、当地域の合併につきまして議決をいただいたところでございます。

これを受けまして、10月12日に北海道知事の決定処分がなされ、10月15日に北海道知事から総務大臣への届け出がなされたところでございます。こちらにつきましては、資料として皆様のお手元に決定書の写しを配付してございますので、ご確認をいただければと存じます。

次に、10月下旬から11月上旬にかけて、合併後の住所変更等の手続きや、4町村の住民の皆さんの各種行政サービスの変更点、また新たに適用となります制度等の紹介をいたしました広報資料を作成し、4町村の全戸に配布してございます。こちらも皆様のお手元に配付してございますので、ご確認をいただければと思います。

次に、本日11月4日でございますが、最終の合併協議会の開催となっております。

この後でございますが、11月の10日に官報によりまして、当地域の廃置分合の総務大臣告示がなされる予定でございます。

次に、今後の取り組みでございますが、11月中旬の5市町村の臨時議会におきまして、合併後施行されます条例議案や補正予算議案などが審議される予定でございます。

また、その中には、当協議会の廃止に関する議案もございます。11月30日の合併の前日をもって当協議会は解散することとなっております。

そして、12月1日には、合併の施行でございます。市民会館におきまして記念式典を開催することとなっております。

以上、これまでの経過と今後の取り組みについてご報告させていただきました。

井上会長 はい、ありがとうございます。

ただいまの報告について、何かご質問等がございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。

皆さんお手元に今説明した資料としてお配りしていますから、大体ご理解いただけると思いますが、それと合わせてこのパンフレットもお配りしてあると思いますので、ごらんをいただいて、何かございましたらご発言をお願いしたいと思います。

山鼻委員。

山鼻委員 今後の取り組みの中で、11月30日合併協議会の解散とありますが、また一堂に会して解散をするのですか。その点どうぞ。

井上会長 はい、事務局、どうぞ。

近江事務局長 一応、一堂に会しての協議会というのは本日が最後ということで、法的には12月1日の前日までこの協議会は存続するという部分ですが、改めてこの解散を行うという形は考えてございません。

したがいまして、本日が実質的な最後の協議ということで、ご理解いただきたいと思います。

山鼻委員 はい、わかりました。

井上会長 ほかにご発言ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

井上会長 また後でご発言の機会があると思いますから、よろしゅうございますか。

〔「異議なし」の声あり〕

井上会長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの報告については、了ということにさせていただきたいと思います。

以上で、今日の議題、議事は終わらせていただきますが、事務局、何かありますか。

はい、どうぞ。

近江事務局長 それでは、事務局から、改めてお願いとご報告をさせていただきたいと思います。

先ほど、報告事項でご説明いたしました。12月1日、午前11時より市民会館の大ホールにおきまして合併記念式典を執り行います。

協議会の皆様におかれましては、既にご案内を差し上げていることとしますので、ぜひともこの記念式典の方にもご出席をいただきますようお願いをいたしたいと存じます。

以上でございます。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、今日は最後の協議会ということになりますので、これまでの合併の協議、あるいはまた合併後のまちづくり、そういったことに関しまして、委員の皆様から1人ずつ感想と申しますか、そういったことをいただきたいというふうに思います。人数、結構いらっしゃいますから、お1人何分とは言いませんが、できるだけ手短かにひとつ感想、それから議事、議案に対して特にご発言がありませんでしたが、もしそのことがあれば、ご意見も含めて結構でございますので、順次ご発言をいただきたいと申します。

それでは、最初に、私の右側の方、西尾委員から順次発言をいただきたいと申します。よろしく願いをいたします。

西尾委員 函館市の助役の西尾でございます。

トップバッターが長ければかなり時間かかるから手短にと言われておりますので、一言だけお礼も含めてご挨拶させていただきたいと申します。

ちょうど31年前に編入されたまちの職員でございました。今もう1カ月を切ったわけなのですが、3町1村の職員の気持ちと申しますか、期待と不安をよくわかるような気がします。函館市の側の人事担当者として、市の職員と町村の職員の差別、区別は一切しないと。これからいろいろな交流人事やっていくことになると思いますが、早く顔と名前を覚えて、いい人事をやって、いい市役所づくりをしていきたいと申しますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、福島委員、お願いいたします。

福島委員 どうも、福島でございます。

この合併の趣旨については、今さら申し上げるまでもないわけですが、こうした大変厳しい経済社会の中でのことでもありますから、自然発生的に将来のことを考えたときに、合併という選択肢をそれぞれが考え、自然発生的にこうした会合になって、今日を迎えたと思います。

そういう点では、各都市の皆様方が胸襟を開いて、私どももそうありますけれども、これまでの各町村の歴史や伝統、文化を尊重しながら、それぞれの立場を尊重し、そして住民の考え方をしっかりと踏まえて、この場で議論をされてきたことが、今日を迎えたものだと思います。

それには当然、ただいまも話されましたけれども、都市の大小にかかわらず、皆さんの意見を真摯に受けとめて協議をした結果、このようにまとまったものと思っております、大変うれしく思う次第でありますと同時に、こうした皆さんが心を一つにして将来を考え、そして住民の福祉充実を考え、町の発展を考えてきたことが、今日を迎えたものと思っております。



とりわけ、私ども議員の立場から申し上げますと、大変皆さんを煩わした時期もございましたけれども、5市町村の議会の議長という立場から申し上げますと、十分議論はされてはきたものの、将来それぞれの都市、それぞれの住民の考えたことが議論されたことがそのとおり反映されるのかどうなのか、これは住民の等しく考えておるところだと思います。

そういうことなどを考えますと、やっぱり私ども函館市の議員は、各町村の歴史や文化、伝統、あるいは住民の気質等々は知るよしもないわけでありますから、そういう点から考えますときに、やっぱり議員の皆さんがその付託を受けておるわけでありますから、皆さんに参加をしていただいて、将来をしっかりと見据えた、そして住民の意見をしっかりと反映をさせて、合併してよかったなど、こう思われるような大函館にしていきたいものだと、こういう立場から、在任特例もたまたまございましたので、在任特例を受けさせていただいたところでございます。

そんなことで、大変皆様方にはご苦勞をおかけいたしましたし、また議員の皆さんにはご心配やら、ご不満もあったかと思えますけれども、皆さんのご理解のもとにこうして決着をすることができましたことを本当にうれしく思っております。

そんなことで、今後ともそういった住民の意思をしっかりと踏まえて、この函館の議会の中で十分活かして、函館の発展のために、各町の発展のために、住民福祉の充実のために、全力を尽くして頑張りたいと思っております。

これまでの皆様方のご支援、ご協力に対しまして、心から感謝を申し上げて、一つの感想の一端とさせていただきたいと思えます。

ありがとうございました。

井上会長 はい、どうも。

それでは、岩谷委員、お願いいたします。

岩谷委員 どうもご苦勞さまでございます。

ここまで至ったのも皆様方がお互いに信頼し合ったということ、特に町名もなくする、ふるさとの名前を失うという4町村の皆さん方がこらえることもたくさんあったと思いますが、おかげで統一することができた。いよいよこれから私どもの責任は重いぞという気持ちで全力尽くして、これからも信頼し合って頑張ってもらいたいと思えます。

どうもありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

小野沢委員、お願いいたします。

小野沢委員 函館市議会の小野沢と申します。

これからは4町村の皆様と力を合わせて、新しいまちづくりに努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞご指導、ご助言を賜りますようによろしくお願いいたします。

井上会長 ありがとうございました。

それでは、佐藤委員。

佐藤委員 前函館市町会連合会会長の佐藤でございます。

12月1日に合併をし、4町村は函館市民となるわけでございますので、今後力を合わせて、市発展のために貢献したいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

井上会長 はい、ありがとうございました。

はい、山鼻委員。

山鼻委員 私の表札が函館市社会福祉協議会会長ということになっております。行政の合併がスムーズにいきましたおかげで、去る9月9日に1市4町村の社協の合併協議会合併協定書の調印式をめでたく終わることができました。ありがとうございました。

その帰り際に、廊下の方で、後ろの方から、さあ、いよいよ函館市民だ、この一言がじんと耳に入りました。恐らく4町村の委員の人の発言であったと思います。この一言、私にも覚えがございます。かつては亀田郡銭亀沢村の一住民でございました。あれから早いもので40年たちます。合併するという当時は希望もございましたが、不安もございました。今振り返ってみて、いよいよ函館市民になるのだという一言申し上げた委員の人の感情がわかるような気がいたします。振り返ってみて、懐かしい一言、そしてそういうふうなことを感じ取るときが必ずまいります。

どうぞ、行政、そして本日ご出席の委員の方々は、社会福祉協議会の運営には必ず参画していただける、助言をしていただける立場の方々でございます。合併してよかったと、このような住民の声を生で聞く日を楽しみにして頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくご指導のほどをお願い申し上げて、所信の一端といたします。

ありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員 戸井町の助役の伊藤でございます。

昨年9月に協議が始まりました当初は、先が長いなというふう感じておりましたけれども、今振り返りますと、大変早い時間の経過であったというふう感じております。

ほぼ予定どおり順調に協議が進みましたが皆さんの前向きな議論があったからだというふう感じております。時間が経過してもこの協議会が意義あるものであったというふう言われるよう、これからのまちづくりに努めてまいりたいと思っております。

どうぞ、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

吉田崇仁委員、お願いいたします。

吉田崇仁委員 戸井町議会の吉田です。

振り返ってみますと、6月の第2回定例議会において合併関連の議案の議決が決定したときには、産みの苦しみといいますか、そのようなものを味わったような感じがいたします。

振り返ってみますと、それぞれの町村も100年を超す体系の中で育んできたというか、発展を続けてきたわけであります。今後も地域の特色、特性を活かしたまちづくりと、先ほどもお話ありましたけれども、合併してよかったと言われるような函館市にぜひなるように期待しておる次第でございます。

どうぞ、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございます。

それでは、同じく吉田悦也委員、お願いいたします。

吉田悦也委員 戸井町の吉田でございます。

本当に合併してよかったと言われるような市に、そしてみんなが心配なく暮らせるようなまちにしたいと思っております。このようにご期待しているものであります。

大変この協議会の中では、皆様にお世話になりました。本当にありがとうございます。

井上会長 ありがとうございます。

それでは、砂子委員、お願いいたします。

砂子委員 戸井町の砂子です。

平成に入ってから、道内第1号と言われております。新聞等を見ますと、破談になっておるところも多いようですが、そういう中では皆さんが協調の精神で前を見ての合併について進めておられる考えであろうと思います。

これからもいろいろお世話になりますけれど、ひとつよろしく願いします。

井上会長 はい、ありがとうございました。

次は、館山委員、お願いいたします。

館山委員 私は戸井村というときに生まれまして、戸井町になったときに子供を育てまして、今度、函館市になったときに孫を育てるというそういう時期に、そしてこの協議会に参加できたことを誇りに思っております。

そして、これからは函館市になって、自分が何ができるかなど、少しでも役に立ちたいなと思っております。そして函館市でよかったなとみんなに喜んでもらえるように協力していきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

井上会長 ありがとうございます。

それでは、石田委員、お願いいたします。

石田委員 恵山町の助役の石田でございます。

まずもって、皆さん、合併にそれぞれご尽力いただきまして、合併を12月1日に迎えることとなります。本当に皆さんに感謝いたしたいと思っております。

いろいろ今までご意見たくさん出ましたけれども、私ども函館市のこれから5市町村そろって振興、発展、そういう部分でもって、いろいろ内容はあるでしょうけれども、発展に努めてまいりたいと思っておりますので、よろしく今後ともお願いいたしたいと思っております。

以上です。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、斉藤明男委員、お願いいたします。

斉藤明男委員 恵山町議会の斉藤でございます。

皆さんと重複する点もあろうかと思えますけれども、ご理解を賜りたいと思えます。

道内市町村の合併第1号として、これからモデルケースになるように強く望むところでございます。

同時に、お互い旧市町村の枠組みを超えて、一日も早く函館市民として融合し、それぞれの地域の特性に応じた振興、発展を強く望みながら、これからもよろしくお願い申し上げたいと思えます。

どうもありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、二木委員、お願いいたします。

二木委員 えさん漁協の二木でございます。

12月1日に合併ということで、迎えることができました。本当にうれしく思っております。

私からは、水産都市の名にふさわしい漁獲高、すなわち200億円を超える扱いにもなりますし、そういうことで今後水産業の限りない振興、発展を心から祈念をいたしたいと、こう思います。

最後になりますけれども、ここまで来れたのも函館市議会の皆様方の温かいご指導、ご理解のたまものでもあるということで感謝を申し上げ、一言といたします。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、藤原委員、お願いいたします。

藤原委員 恵山町商工会の藤原でございます。

この合併も新聞報道等を見ますと、市民には余り歓迎されていないような報道がされておりますけれども、国際水産海洋都市を今後進めるに当たりまして、すばらしいこの自然と水産資源を持っている4町村でございます。これを今後活かすことによって、すばらしい市として生まれ変わり、現在の函館市民に喜んでいただけるような市にしていただければ幸いです。

このたびは本当にいろいろと意見を聞いていただきまして、誠にありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、斉藤賢三委員、お願いいたします。

斉藤賢三委員 恵山の斉藤でございます。

北海道で初めてこの合併が誕生されまして、12月に発足するわけでございますが、したがいまして、非常に意義の深い歴史に残る合併が実現されたわけでございます。

我々住民サイドといたしましては、この合併の成果というものが強く期待されるわけで

ございまして、日常の生活を通しまして、そういう実感が肌を感じるような行政が今後推進されますことを、特に行政を運営される担当の皆様方には、これらの点につきまして、万全を期してひとつ対処していただくことをお願い申し上げまして、感想の一言にかえておきたいと思います。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、続きまして、佐々木範子委員、お願いいたします。

佐々木範子委員 榎法華の佐々木範子です。

この合併協議会の法定委員の1人として、皆さんと一緒にこの9回の会議に参加させていただいて、光栄に思っております。

また、住民の一人一人が函館市になることへの期待と、あと半分は不安があります。その不安を社会福祉協議会の監事として、なるべく施設を利用している人が、函館市になったら不便になったと言われたいような、そういうような気持ちでこの会に参加して遂行して見守ってきました。

それで、社会福祉協議会の方の会長さん山鼻さんも何度もおっしゃっていただきましたが、事業が一つも欠くことなくやったださる、地域の人がいろんな意味で、ああ、函館市になってよかったと、そういう声が聞こえるようになる、合併後も見つめていきたいと思ひますし、いろんな意味でこれからも地域の人たちと一緒に歩いていって、函館市になってよかったねという声がたくさん聞けるような、そういうような歩み方をしていきたいと思ひます。

これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、次は中市委員、お願いいたします。

中市委員 榎法華村の議会議員の中市でございます。

あと1カ月足らずで新函館市の誕生を見るということで、今思い起こせば、感慨深い思ひと、複雑な思ひが交錯をしております。

どうか、合併後の新市のまちづくりにおいては、この合併協議会で論議をされ、いろんな協議があったことなどを含めて、十分に尊重していただきまして、後世に平成の大合併、道内第1号は速さだけではなかった、本当にあのとき合併をしてよかったと言われるように念願をしまして、一言コメントにかえたいと思ひます。

どうもありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、田中委員、お願いいたします。

田中委員 榎法華の議会の田中でございます。

渡島、檜山、この道南でも多くの合併協議会が設立をされて、協議が進んでいるわけですが、これほど1市3町1村の合併がスムーズに進むとは思っていませんでしたが、ひとえに市長を初めとする各町村の首長、そして今日出席の各委員のご努力のたまものだと思

っております。さらには地域の住民の理解があったからこそ、このようにスムーズに協議会が進んで、合併が完成されたものと思っております。

さらに、新市に移行される場合には、円滑に、そして円満に市政に移行されることを望みまして、一言ご挨拶といたします。

どうもありがとうございました。

井上会長 ありがとうございました。

それでは、大津委員、お願いいたします。

大津委員 榎法華村助役の大津でございます。

全道各地に法定協議会が結成されておりますけれども、その法定協議会もあちこちで解散の話が出ている中でもって、当法定協議会は短期間のうちに協議が終了し、合併を迎えることができたというふうなことは、委員さんを初め、函館市の指導力のたまものというふうにご感謝しているところでございます。

合併後も細かい作業、詰めが残っているようでございますけれども、新函館市の一体化に向けまして、なお一層のご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、続きまして、熊谷委員、お願いいたします。

熊谷委員 南茅部の熊谷でございます。

私は、今日9回目の最後の会議を終えるということで、大役を果たした安堵感というのですか、それで今ほっとしている現状でございます。

そしてまた、今回の合併について、私みたいなものでも歴史的な大事な協議の中に参画させていただいた、このことに深く感謝を申し上げたいなど、こんなふうに思っております。

そしてまた、12月1日から函館の市民になるわけでございますので、微力ではありますが、皆様のご協力をいただきながら、私にできることはお手伝いしていきたいなど、こんなふうにも考えておりますので、どうぞ、ご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

次は、関根委員、お願いいたします。

関根委員 南茅部商工会長の関根でございます。

全委員会に参加しました。まずはうれしく思います。

会長から委員会の中で、四つの商工会、合併すると、この一言が物の見事に脳天をぶち当たりまして、合併に向けて8月1日から協議し、18年の4月1日に合併することに決定しまして、それに向けて作業を進めております。

まずは委員会も全部うまくいったし、商工会の合併もうまくいくように、一生懸命努力

している最中でございますので、予算の方だけはできるだけうまく補助金を削らないように、既に何回もお願いしてございますので、よろしく申し上げます。

終わります。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、樋口委員。

樋口委員 南茅部の樋口です。

この協議会に参加させていただきまして、一言感想を申し上げます。

私みたいな者もこのような大事なところへ出席させていただきまして、また意見等も言わせてもらいました。このようにスムーズに合併承認までいくとは、私は思っていませんでした。しかしこのようにいけたということは、やはり委員の一人一人の皆さんがやっぱり合併が必要だという意識があったのではないかと考えております。

私としては、この決まったことに対して責任の重大性を感じております。この責任をこれから新しい函館市になった場合において、発展するために努力してまいりますので、どうかよろしく願いいたします。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、杉林委員、お願いいたします。

杉林委員 南茅部の杉林です。

この協議会に私は南茅部の議会を代表して、議長として参加をさせていただきました。これまでの協議会の中でもさまざまな意見を述べさせていただきました。そういう場面では井上会長、そして事務局の方々には大変ご苦労をかけたなど、そんな思いでいるところでございます。

しかしながら、すべての協議にわたって、函館市あるいは函館市議会には大変ご寛大な対応の中で、等しく我々地域の方の意見も取り入れていただいたと、そういった面では、この場をかりて、本当に厚くお礼を申し上げるところでございます。

実は、たまたま私の家は川汲漁港のすぐそばでございまして、今の時期になりますと大変チカ釣りの方々が大勢見えております。今までは、いや、いや、また函館の人がチカ釣りに来てなどと、ある意味ではちょっと邪魔になったり、そういう感じもしておりました。ところが心持ちというのは不思議なもので、同じ市民になるという思いがあるせいか、いや、今度は函館から来ているという言い方がもうもちろんできないですし、やっぱり気持ちというのがこれも大事なのだなど、そんな思いでおりますので、この後もひとつよろしく願いをいたします。

ありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、小中委員、はい、どうぞ。

小中委員 南茅部町の助役の小中でございます。

助役就任が9月10日でございまして、最初の会議に出ましたけれども、これが最後の

協議会ということでございます。

12月1日、南茅部町も函館市となります。そういう面では函館市の地域となりまして、今後考えますと、函館市の1地域と言いながらも、やはり函館市であると、そういう面では先ほどどなたかの委員さんがおっしゃいましたけれども、一体感の中でやらなければならないと。ただ私自身が支所の方に残っている勤務もあるようです。そういう意味でいきますと、私はやはり函館市民と一体になりますけれども、南茅部の地域が一生懸命に頑張れる輝く地域づくりというものも、私は微力ながら努力していかなければならないと思っております。

そういう面では、ぜひ皆様のご指導、ご鞭撻をお願いしたいと思います。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、今度は学識経験第1号、星井委員、お願いいたします。

星井委員 社団法人函館青年会議所の理事長をさせていただいております星井と申します。

学識経験というお話ですが、なかなか若輩者でございまして、大したこともお話しできませんけれども、まずは吉澤町長、工藤町長、そして船木村長、それから意思を引き継いでいらっしゃる細井町長、本当に、そしてそれを束ねていらっしゃる井上市長、本当に大変な年月、大変なご苦労があったものと思います。まず皆様のその判断に私は敬意を表したいと思います。ご苦労さまです。それから事務局の方々も本当にご苦労さまでした。大変な作業だったと思います。ご苦労さまでございます。

12月の1日にいよいよ新しく誕生するわけですがけれども、昼間にはその式典も行われますが、夜には12月1日はクリスマスファンタジーというものの点灯式も行われます。その点灯式のプログラムの中にも、この12月1日から一緒になれる新しく誕生を迎える函館市に関しましてイベントも組みたいと考えておるところでございます。

ですから、どうか夜には、クリスマスファンタジーの方にも足を運んでいただければいいかなというPRの1点と、それから皆様にぜひこれはお願いなのですがけれども、もちろん融合して同じになることは非常に大切なことではあります。例えば小さなお祭りですとか、多年代にわたるおじいちゃんからお孫さんまで一緒にその祭りに携わるというのはものすごく大切なことだと思っております。ですからたとえ町名がなくなって、函館市と一緒にすることがあっても、ぜひその地域に残っているそのような大切なコミュニティーが残っているお祭りを、文化を、伝統をぜひ残していただきたいと思っております。それが子供たちにとってはものすごく必要なことであるし、この地域においても、ものすごく必要なことだと思っております。それを皆様をお願いしたいと思いますし、私たち青年団体も今にも増して一層努力する所存でございます。

どうもありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、渡部委員、お願いいたします。



渡部委員 連合の渡部ですが、感想を述べるという話でありまして、本州などは歴史的にいても、合併がしやすい空気があると思うのですが、北海道の場合は恐らく松前藩しが当時なかったでしょうから、そういう点からいうと、大変な作業だなというふうに思っておりますし、また近隣でもどなたかもおっしゃっていましたが、法定協ができて解散をするという、こういう状況で、私はもともとは市役所の職員出身なものですから、そこに働く職員の皆さん、そして住民の皆さん、大変に複雑な思いだなという点を思うときに、先ほど西尾さんも申しておりましたけれど、私も48年の12月1日、ちょうど31年前、亀田市に奉職している立場でして、函館市に表向きは対等合併ですが、事実上は編入合併と、こういう形になって、しかし30年を過ぎても、全くそういう点でいえば、私の経験からいっても違和感のない状況だろうというふうに思っておりますし、ぜひそういう点でいえば、そういう側面から考えても、この合併は必ず成功していくだろうというふうに思っております。

これは井上市長初め、4町村の首長さんのリーダーシップをもとに、この議会の皆さんの熱い思いが成熟したというふうに思っておりますし、私ども地域の住民団体の一つとして、またいろんな意味で市政執行に向けてご協力を申し上げていきたいということだけ申し上げて、感想にかえたいと思います。

ありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、金山委員、お願いいたします。

金山委員 函館の教育長の金山でございます。

現在、私ども5名の教育長、何度か協議を進めておりまして、新しい函館の教育をつくらうと、そういう方向で話を進めているさなかでございます。新しいものをつくるわけですから、かなりエネルギーが必要でありまして、不安とか危惧の中で、もしもこれ議論を進めるとすれば、これはとんでもない落とし穴にはまる可能性があるかと。教育はもともと明るいものでありますし、また開明なものでありますから、希望の方向をしっかりと押さえながら、じっくりやっていきたいと思います、こんな考えで今お話し合いをしているさなかでございます。

今後とも皆様方の大きなご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

以上です。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、最後、河合委員にお願いいたします。

河合委員 渡島支庁の河合でございます。

少子高齢化、あるいは過疎化が激しくなる中で、地方分権が進められておりまして、そのために三位一体の改革だとか、あるいは道州制の議論が盛んになってきております。そうすると基礎自治体がどんなふうにあらねばならぬかということが大変重要な課題というふうになっている中で、この5市町村が将来を見据えて、そしてまたそれぞれを互いに思

いやりながら議論を進めた結果、こうして合併が成就するところまで来たということに對しまして、深く敬意を表するところでございます。

今、道南もいろんな意味で新しい時代、変わらなければならない時代というものを迎えておりまして、そうした中で新しい函館市がスタートをするということは、そこでリーダーシップを大きく発揮していただけるものというように思っております。

道の立場といたしましても、今回のこの合併につきまして感謝を申し上げますとともに、この函館市の発展に大きく期待をいたしまして、厚く御礼を申し上げますところでございます。

どうもありがとうございます。

井上会長 どうもありがとうございました。

それでは、最後今度はそれぞれ副会長さんからコメントをいただきたいと思っております。

最初に吉澤戸井町長さんからお願いいたします。

吉澤副会長 副会長の戸井町長でございます。

今回、5市町村の合併協議が大変スムーズに整ったというふうなことは、皆さんご承知のとおり、今回編入合併の形式ではありましたが、はっきり申し上げまして、井上市長初め、市議会の皆さん、そして関係者の皆さんが私ども町村側の視点に立った協議を進めていただいたと、そういう結果であろうと、このように私は感謝をしております。これは副会長はみんな同じ考えだったと思っております。

合併後は当然この新しい函館市の1地域としての認識を高めるのはもちろんでございますけれども、新市のさらなる発展に寄与できる地域づくりを微力ではございますが、意を注いでまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

井上会長 ありがとうございます。

続きまして、工藤恵山町長さんをお願いいたします。

工藤副会長 大変ご苦労さまでございます。工藤でございます。

私、平成14年の6月の2日に首長にならせてもらいました。まさかそのとき、結果として恵山町の名前を消すための首長なるなどということはつゆとも思っていなかったわけでございます。首長にならせていただいた以降、非常に市町村合併の動きが顕著になったわけでございます。

実は、最近地方自治に精通しているある大学の先生がこんなことを申しておりましたのを聞いております。首長はその地域の過去と現在と未来に責任を持っているという言葉に耳にしましたときに、まさしく私はこの2年余りそういうことが実感としてわかり得たのかなというふうに思っております。そういう意味で、この市町村合併は、未来に責任を持つ立場として、どうしていくかということの一つの今の段階での結果なのだろうというふうに思っております。

今後、函館市となるわけですがけれども、これが10年、20年後、合併してよかったと

というような取り組みを行政の立場としては進めていかなければならないのかなというふうに思っております。

ただ、この法定協議会の中で、特に最初のころに、山鼻委員も含めて、地域を大事にする合併にしていきたいというようなことをおっしゃってありました。私はそのことに非常に意を強くしておりますし、そのことによってこの函館市の発展もまたあるのかなというふうに思っております。微力ながら頑張らせていただきたいというふうに思います。

最後に、事務局の近江局長初め、その日のうちに帰ればよいなというぐらい仕事をしているというふうにも聞いておりました。この場をかりて感謝をしながら、さらにはまた議会議員の皆さん方に感謝をして、ご挨拶にかえさせていただきます。

ありがとうございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、次は船木榎法華村長さんをお願いいたします。

船木副会長 船木でございます。

解散に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思っております。

昨年の9月に設置をされました5市町村での法定協議会が順調に進みまして、本年4月には合併調印式、さらには6月には5市町村の議会での議決、そして10月には道議会の議決も行われまして、函館市との合併まで1カ月を切ることになったわけでございます。

この5市町村合併につきましては、井上函館市長のリーダーシップに改めて感謝を申し上げますとともに、吉澤戸井町長、そして工藤恵山町長、そして南茅部の細井町長を初め、5市町村の合併協議会の委員の皆さん方に心からお礼を申し上げる次第でございます。

また、福島函館市議会議長を初め、5市町村の議会議員の方々、そして関係者の方々に何かとご尽力をいただきましたことを重ねてお礼を申し上げたいと思っております。

合併後は新函館市として、一体性のあるまちづくりができますようにご期待を申し上げますとともに、地域住民が安心して生活できる道南の都市の拠点として、ますます成長されますことを心から祈念申し上げまして、私の挨拶にかえさせていただきます。

ご苦労さまでございました。

井上会長 はい、ありがとうございました。

それでは、最後、細井南茅部町長さん、お願いいたします。

細井副会長 南茅部の細井です。

合併作業に際しまして、函館市の寛大なる取り組み、そして事務局職員の努力、法定協議会委員皆様のご協力とご理解のもとで、12月1日に函館市と合併を迎えることができました。

我々首長は支所長として残ることになります。どうしても地域重点型の考え方になっていくのではないかと、このように思っております。

4町村は水産を主とした町でございます。建設計画の中にも、海をキーワードとした水産海洋都市の中にこの水産が位置づけられております。それに向かって地域の特性を活か

した振興、発展にやはり頑張っていかなければならないのが1点でございます。

それから、2点目は、やはり住民から見ると、サービスの低下につながるだろうとこういう見方もあります。そういう面では、その低下を最小限に食い止めると、こういうふうなことを基本に、将来に禍根を残さない合併でありたいものだ、このように思っております。

今後は函館市民となりますので、皆様のご指導、ご支援をよろしくお願いを申し上げまして、一言ご挨拶にかえさせていただきます。

井上会長 はい、ありがとうございました。

以上、副会長さん、各委員さんからそれぞれご感想なり、コメントをいただきました。私からも個人的なことも含めてお話ししたいこともたくさんありますが、協議会の会長として、最後閉会のご挨拶をさせていただきたいと思っております。

合併協議会の閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、昨年9月以来、本日までの長きにわたり、5市町村の合併協議にご尽力を賜り、改めて厚く御礼を申し上げます。

本日をもちまして、当協議会は最後の開催となるわけでございますが、これまでの熱心なご協議、あるいはさまざまご提言を賜り、おかげをもちまして5市町村の合併が見事に成就する運びとなりました。

5市町村の合併につきましては、北海道における平成の大合併の第1号、そしてまた昭和48年に本市が亀田市と合併をして以来の北海道で初めての合併ということでございまして、大きな二つの意義がある、そういった合併でございまして、亀田市との合併からは31年ぶりということでございまして、いろいろな意味で何かと注目をされてきたところでございます。

これまでの合併協議、いろいろなご意見、ご提言がございましたが、極めて順調に進んできたわけでございます。合併後は新たな自治体運営につきまして、その評価という点で今後ますます注目されるものと考えているところでございます。

さて、我々市町村を取り巻く環境につきましては、改めて申し上げるまでもなく大変厳しい状況にあり、さらには国の構造改革、特に地方分権の推進における三位一体の改革に代表されるように、地方の自主・自立に向けた時代の変革期に来ている状況にございます。

市町村にとりましては、なかなか先の読めない時代に置かれているものと認識をいたしており、このような混沌とした状況を地方における変革の要請と、真摯に受けとめ、我々5市町村が合併の取り組みを進めてきたところでございます。

合併後におきましては、自立した自治体として、地域の住民に対する行政サービスを初め、地域の振興を図る上での各種施策の展開が継続可能な体制づくりを目指してまいりたいと考えているところでございます。

これまでもあらゆる場面でお話し申し上げてまいりましたが、合併後の新しい自治体として、その基盤の要となりますのは「海」でございます。当地域が新たな展望のもと、こ

れからのまちづくりを進めていくために、この「海」をキーワードにしながら、水産業の振興、国際水産・海洋都市構想の推進、さらにはスケールの大きい観光都市の形成を図るなど、北海道の中であって道南を牽引できる中核都市の役割を担ってまいりたいと考えております。

また、新たな自治体として、その主役となりますのは、ここに暮らす住民の皆様でございます。このたびの合併を契機に地域住民の交流をより一層推進し、一体感の醸成を図るとともに、夢と希望にあふれた活力のあるまちづくりを進めてまいり所存でございます。

終わりになりますが、合併後におきましても、さまざまな場面において、当協議会の委員の皆様には引き続き、ご支援、ご協力を賜りたいと考えているところでございますので、この場をおかりをいたしましてお願いを申し上げ、合併協議会の解散に当たりましたのご挨拶とさせていただきます。

本日まで長期間にわたりまして、誠にありがとうございました。

川越課長 井上会長、どうもありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第9回函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会を終了いたします。

委員の皆様、長期間にわたりまして、誠にありがとうございました。

---

午後2時35分 閉 会

以上、第9回函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会会議録の内容が正確であることを証明するためここに署名する。

函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会

会 長 井 上 博 司

函館市・戸井町・恵山町・椴法華村・南茅部町合併協議会

委 員 中 市 敏 樹